

国立国語研究所学術情報リポジトリ

编者・執筆者紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 研究社 公開日: 2026-07-17 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000642

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



編者・執筆者紹介

編者

石黒 圭（いしぐろ・けい） 国立国語研究所・総合研究大学院大学教授

専門は日本語学（文章・談話）、日本語教育学（読解・作文）等。主な業績：『理想の辞書を求めて』（2025、明治書院、編著）、『スマホは辞書になりうるか』（2024、明治書院、共編著）、『文系研究者になる』（2021、研究社、単著）、『どうすれば論文・レポートが書けるようになるか』（2020、ココ出版、共編著）

▷第2章、第3章、第11章、第13章執筆担当

烏日哲（うりじゃ） 国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員

専門は談話分析、学習者作文研究、アカデミック日本語。主な業績：『どうすれば論文・レポートが書けるようになるか』（2020、ココ出版、共編著）、『文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究—学習者の母語から捉えた日本語理解の姿—』（2020、ひつじ書房、分担執筆）

▷第4章執筆担当

執筆者（執筆順）

迫田 久美子（さこだ・くみこ） 広島大学森戸国際高等教育学院特命教授

専門は第二言語習得研究、学習者コーパス研究、日本語教育学等。主な業績：『日本語教育に生かす第二言語習得研究 改訂版』（2020、アルク、単著）、『日本語学習者コーパスI-JAS入門—研究・教育にどう使うか—』（2020、くろしお出版、共編著）、『北京日本語学習者縦断コーパス（B-JAS）と日本語の指導法』（2024、中国国際広播出版社、共編著）

▷第1章担当

呉 楚琦（ご・そき） 一橋大学大学院博士後期課程／国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員

専門は日本語教育におけるフィラー研究。主な業績：「日本語学習者の独話におけるフィラーの使用傾向—縦断学習者コーパスを用いて—」（2024、『一橋大学国際教育センター紀要』6、単著）

▷第2章担当

井上 雄太（いのうえ・ゆうた） 国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員

専門は会話分析、社会言語学、テーブルトークRPG研究。主な業績：『日本語研究者がやさしく教える「きちんと伝わる」文章の授業』（2023、日本実業出版社、共著）、『ビジネス文書の応用言語学的研究』（2023、ひつじ書房、分担執筆）、『TRPGの発話における操作主体の立ち上がり』（2017、『言語社会』11、単著）

▷第5章担当

呉 丹（ご・たん） 東京都立大学国際センター特任助教

専門は文法研究、文法習得研究。主な業績：「複文に用いられるテモラウの意味解釈—テ形・連用中止形筋述語となる場合—」（2021、『日本語・日本学研究』11、単著）

▷第6章担当

市江 愛（いちえ・あい） 埼玉大学大学院人文社会科学研究所准教授

専門は日本語教育学、第二言語習得研究。主な業績：「モシは日本語条件文の理解を促進するのか—自己ペース読文実験を用いた文処理過程から—」（2021、『日本語教育』178、単著）、「日本語話者と日本語学習者はいつモシを使用するのか」（2021、『日本語／日本語教育研究』12、単著）、『日本語研究者がやさしく教える「きちんと伝わる」文章の授業』（2023、日本実業出版社、共著）

▷第7章担当

吉田 暁 (よしだ・あきら) 城西大学薬学部助教

専門は社会心理学、医療薬学。国際交流基金日本語試験センター研究員を経て、現職。現在は心理学的手法を用いた医療コミュニケーションの研究に従事。本書に関連する業績として「簡便な日本語能力測定を目的とした新たなテストの開発—「かんたん日本語テスト」の予備の実施結果の報告—」(2024、『国立国語研究所論集』26、共著) などがある。

▷第7章担当

田 佳月 (でん・かげつ) 西安外国語大学日本文化経済学院講師

専門は日本語教育。主な業績：論文「留学帰国青年日语教师汉语学术写作焦虑分析」(2024、『日语学习与研究』2024 (6)、単著)、「中国人留学生の学術レポート執筆不安とその変化—学習背景の違いに着目して—」(2019、『専門日本語教育』21、単著)、『日语学术写作与研究方法』(2023、外语教学与研究出版社、分担執筆)

▷第8章担当

田 昊 (でん・こう) 北京語言大学日本語科講師

専門はコーパス言語学。主な業績：『基于语料库的日语句末省略句习得研究』(2025、北京語言大学出版社、単著)、「独話音声と対話音声における2種類の「けど」類発話に関する考察—Final loweringと最終モーラ長に着目して—」(2018、『一橋日本語教育研究』6、単著)、「「言いさし」の「けど」類の使用実態に関する一考察—日本語教育文法の視点から—」(2013、『日本語教育』156、単著)

▷第9章担当

李 琦 (り・き) 一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程／国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員

専門は日本語学、日本語教育学。主な業績：「ジャンルによる換言の接続表現の使い分け—BCCWJ, CSJ, CEJCの出現頻度別の特徴—」(2026予定、『計量国語学』35 (4)、単著)、「話し言葉における接続表現の希薄化現象とその要因—換言の接続表現「要するに」を中心に—」(2025、『一橋大学国際教育交流センター紀要』7、単著)

▷第10章担当

朱 雅蘭 (しゅ・がらん) 一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程／国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員

専門は日本語教育学、文章論。国立国語研究所技術補佐員として作文コーパスの形態素解析業務を担当。主な研究・教育活動：「社説を用いた要約文の構造に関する日中対照研究—作文教育における書き手意識の分析を通して—」(2024、修士論文)、『にほんごあのね 語彙シート ベトナム語・インドネシア語・中国語』(NPO法人プラス・エデュケート、中国語翻訳担当)

▷第10章担当

工藤 隆弘 (くどう・たかひろ) 明星大学大学院情報学研究科情報学専攻博士前期課程／国立国語研究所技術補佐員

専門は自然言語処理。主な研究：「解釈の多様性に着目した大規模言語モデルの比喩解釈能力の評価の検討」(2025、情報処理学会第264回自然言語処理研究会)

▷第10章担当

横野 光 (よこの・ひかる) 明星大学情報学部・データサイエンス学環准教授

専門は計算言語学、自然言語処理。主な業績：「Pic2PLex: A Test for Assessing Free Productive Vocabulary」(2023, *Transactions of the Japanese Society for Artificial Intelligence* 38 (1)、共著)、「「ロボットは東大に入れるか」プロジェクト：代ゼミセンター模試タスクにおけるエラーの分析」(2016、『自然言語処理』23 (1)、共著)

▷第10章担当

中村 有里 (なかむら・ゆり) 一橋大学大学院博士後期課程／国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員

専門は、近現代短歌における解釈の多様性が生じる要因。

▷第11章担当

江澤 実紀（えざわ・みのり） 東京外国語大学大学院博士後期課程／国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員
専門は日本語教育学、異文化交流研究。主な業績：“Traditional Culture Education Using Manga: “KATANA” by Kimiko Kamata as an Example” (2025、『都留文科大学研究紀要』101, 共著)、“Emotional Expressions of Hachioji Kuruma Ningyo Nishikawa Koryu V: An Analysis of Movements and Narration” (2024, *Studies in the Japanese Language Culture*, 共著) ▶第11章担当

高橋 香菜（たかはし・かな） 国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員
専門は日本語教育学。 ▶第11章担当

Lai Thanh Hoa（ライ・タイン・ホア） 一橋大学大学院博士後期課程／国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員
専門は日本語教育、第二言語習得。主な業績：「縦断作文コーパスに見る学習者の日本語習得過程」(2023, 日本語学会2023年度秋季大会、分担発表)、「日本語学習者の作文コーパスの構築に向けて—メタ情報付与の方法—」(2024, 日本語学会2024年度春季大会、分担発表)、『スマホは辞書になりうるか』(2024, 明治書院、分担執筆) ▶第11章担当

加藤 敬介（かとう・けいすけ） 山梨英和大学非常勤講師
専門は日本語教育学。主な業績：「日本語学習者の作文に対する生成AIによる訂正フィードバックの特徴—教師フィードバックとの比較から—」(2025、『一橋大学国際教育交流センター紀要』7, 単著) ▶第12章担当

本多 由美子（ほんだ・ゆみこ） 国立国語研究所特任助教
専門は語彙研究、漢字および語彙教育。主な業績：『日本語研究者がやさしく教える「きちんと伝わる」文章の授業」(2023, 日本実業出版社、共著)、『一語から始める小さな日本語学』(2022, ひつじ書房、分担執筆)、『二字漢語の透明性と日本語教育への応用』(2022, くろしお出版、単著) ▶第13章担当

井伊 菜穂子（いゐ・なほこ） 琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科准教授
専門は文章論、接続詞研究。主な業績：『日本語表記の多様性』(2025, ひつじ書房、分担執筆)、「日本語学習者の作文に対する安定した印象評価データの収集方法」(2025、『国立国語研究所論集』28, 共著)、「「接続領域」の広さからみた接続詞の特徴—文連接レベルの接続詞と文章構造レベルの接続詞—」(2023, 『計量国語学』34 (2), 単著) ▶第13章担当

山口 昌也（やまぐち・まさや） 国立国語研究所准教授
専門は教育工学、コーパス言語学。『太陽コーパス』『日本語話し言葉コーパス』などのコーパス構築、協同学習支援システムの研究・開発などに従事。全文検索システム『ひまわり』、教育活動観察支援システムFishWatchr, 作文教育支援システムTEachOtherS開発者。 ▶第14章担当

須賀 和香子（すが・わかこ） 総合研究大学院大学博士後期課程／国立国語研究所リサーチアシスタント
専門は日本語教育学、第二言語習得研究。主な業績：『日本語教師のための「活動型」授業の手引き—内容中心・コミュニケーション活動のすすめ—』(2008, スリーエーネットワーク、分担執筆)、『日本語学習者コーパスI-JAS入門—研究・教育にどう使うか—』(2020, くろしお出版、分担執筆) ▶第15章担当